



## 帯西の食育

昨日13日(木)は、帯西の食育への取り組みを熊本市の食育の担当者会という研修の中で紹介しました。実は、昨年度の学校保健委員会には、熊本市の教育委員会の方も見に来られていましたが、子供たちが自発的に会を運営する姿や、保健委員会・体育委員会・給食委員会から示された課題の解決策を見ている子供たちもしっかりと受け止めている姿、そして、その改善策に自分なりの具体的な行動目標(めあて)を立て、実践しようとする子供たちの姿などに感心されていました。

その取り組みの一端を是非、熊本市の先生方に紹介して欲しいと依頼され、昨日は帯西の栄養教諭の二ノ村先生と、食育担当の名越先生の二人が、研修の中でプレゼンを行いました。参加者は熊本市の食育の担当の先生方でした。発表内容は、学校保健員会の内容に加え、給食委員会の人気者である給食キングやミルクキングが誕生した背景、給食委員会が楽しみながら自分たちの役割を果たしている姿、そして今年度、新たな給食委員会の頑張っている様子なども動画やスライドで紹介しました。参観された先生方も帯西の取り組みにとっても興味を持たれたようでした。

「食」は、人を良くすると書きます。本校の取り組みを、他のたくさんの学校で参考にしてもらうことで、熊本市の子供たちの「わくわく」の種を撒くことに繋がり、子供たちの食育を通じた人づくりに貢献できればと思いました。



～2月：給食王&帯西ミルクキング常時活動でも大活躍～

## 「キキクル」で大雨に備えよう

「もっとわくわく通信37号」で紹介した、気象庁の「危機度分布」(愛称:キキクル)が先日10日の熊日でも紹介していました。以下は熊日の記事を一部抜粋したものです。「熊本地方気象台は、河川の氾濫から身を守るために気象庁のホームページで災害発生の危険度分布を示す『洪水キキクル』の活用を自治体や住民に呼びかけている。1級河川の支流など水位の発表がない河川は、色が『紫』に変わった時が避難のタイミングという。2020年7月4日の熊本豪雨では球磨川の支流が氾濫、被害が拡大した。万江川も午前6時半前後に氾濫したとされるが、洪水キキクルの地図は、午前3時半過ぎの時点で当時最も危険度が高い『紫』だった。現在は危険度が低い順に、平常時の青を含め、黄、赤、紫、黒の5段階。黒は「重大な洪水が切迫。もしくは発生している状況」、紫は「増水し、今後氾濫する可能性が高い」ことを示す。」ということです。



当時の球磨川の様子。紫に変わった支流がたくさんある

これから本格的な雨の季節を迎えます。周囲の河川の色が紫に変わったら、避難を判断する一つの材料となります。スマホなどに登録しておけば非常変災の対応策の一つと成り得ますね。